

**製品名: Stat3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18355**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	88kDa

**抗原情報**

遺伝子名	STAT3
別名	STAT3; APRF; Signal transducer and activator of transcription 3; Acute-phase response factor
遺伝子 ID	6774.0
SwissProt ID	P40763
免疫原	抗血清はヒト STAT3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 672-721

**背景**

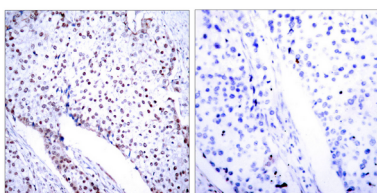
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、STAT タンパク質ファミリーのメンバーです。サイトカインや成長因子に反応して、STAT ファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞

核に移行し、そこで転写活性化因子として機能します。このタンパク質は、インターフェロン (IFN)、EGF、IL5、IL6、HGF、LIF、BMP2など、様々なサイトカインや成長因子に反応してリン酸化され、活性化されます。このタンパク質は、細胞刺激に反応して様々な遺伝子の発現を媒介し、細胞増殖やアポトーシスなど、多くの細胞プロセスにおいて重要な役割を果たします。低分子GTPaseであるRac1は、このタンパク質に結合し、その活性を制御することが示されています。PIAS3タンパク質は、このタンパク質の特異的阻害剤です。この遺伝子の変異は、乳児期発症の多臓器自己免疫疾患および多臓器疾患と関連している。STAT3の欠陥は、常染色体優性高免疫グロブリンE反復性感染症症候群 (AD-HIES) [MIM:147060]の原因である。これは、高IgE症候群またはジョブ症候群としても知られる。AD-HIESは、免疫不全、慢性湿疹、再発性ブドウ球菌感染症、血清IgE値の上昇、好酸球増多、特徴的な粗い顔貌、異常な歯列、関節の過伸展、および骨折を特徴とする、免疫および結合組織のまれな疾患である。機能: 様々な急性期タンパク質遺伝子のプロモーターにおいて同定されているインターロイキン-6 (IL-6) 応答性エレメントに結合する転写因子。IL31はIL31RAを介して活性化します。、その他:gp130を介したシグナル伝達経路に関与します。、オンライン情報:STAT3 エントリ,オンライン情報:STAT3 変異 db,PTM:IL-6、IL-11、CNTF、LIF、CSF-1、EGF、PDGF、IFN-alpha、およびOSMに反応してチロシンがリン酸化されます。DNAが損傷すると、おそらくATMまたはATRによってセリンがリン酸化されます。セリンのリン酸化は、安定したDNA結合STAT3ホモ二量体の形成と転写活性の最大化に重要です。、類似性:転写因子STATファミリーに属します。、類似性:1つのSH2ドメインを含みます。細胞内位置:核と細胞質の間を往復します。核内への恒常的な存在はチロシンリン酸化に依存しない。、サブユニット: 関連ファミリーメンバー (少なくともSTAT1) とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成する。NCOA1、PELP1、SOCS7、STATIP1と相互作用する。HCVコアタンパク質と相互作用する。IL23存在下でIL23Rと相互作用する。IL31RAと相互作用する。SIPARと相互作用する。SH2ドメインを介してNLKと相互作用する (類似性による)。KPNA4およびKPNA5と相互作用する。KPNA4は核内輸送の主要なメディエーターである可能性がある (類似性による)。TMF1と相互作用する。、組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓。、

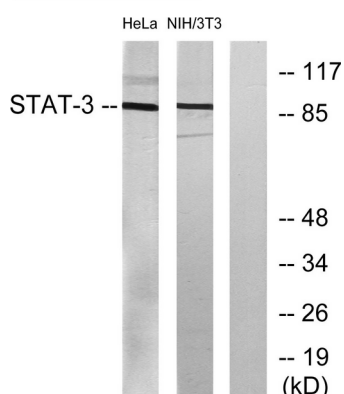
## 研究分野

微小管制御; SAPK\_JNK; 幹細胞経路; タンパク質アセチル化

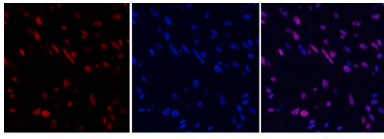
## 画像データ



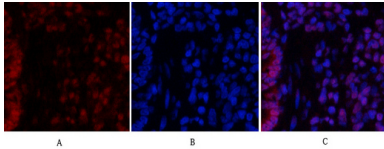
STAT3抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



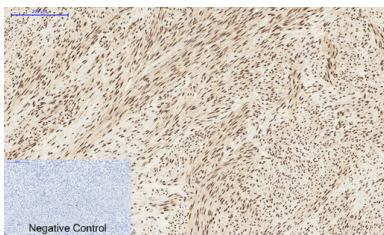
HeLa細胞および3T3細胞のライセートをSTAT3抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



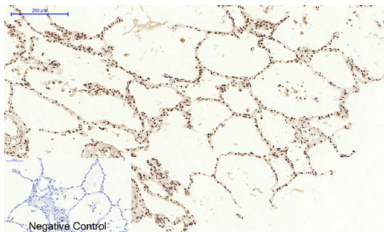
ヒト子宮組織の免疫蛍光染色。1, Stat3 ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50 分）。3, 図 B: DAPI（青）10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



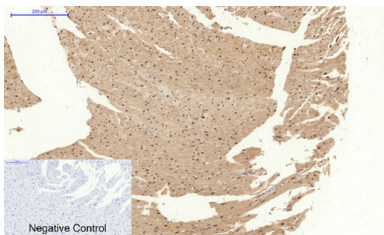
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, Stat3 ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50 分）。3, 図 B: DAPI（青）10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



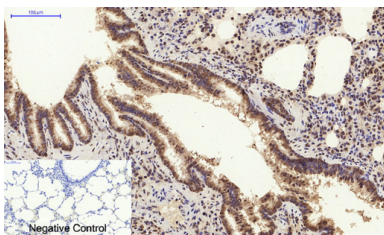
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. Stat3 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



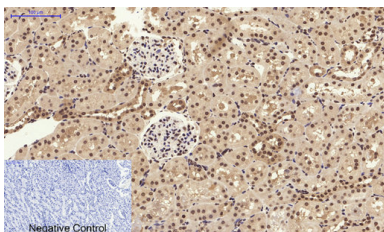
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. Stat3 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. Stat3 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. Stat3 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. Stat3 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。